難治性慢性疼痛に対する有効な治療法の開発

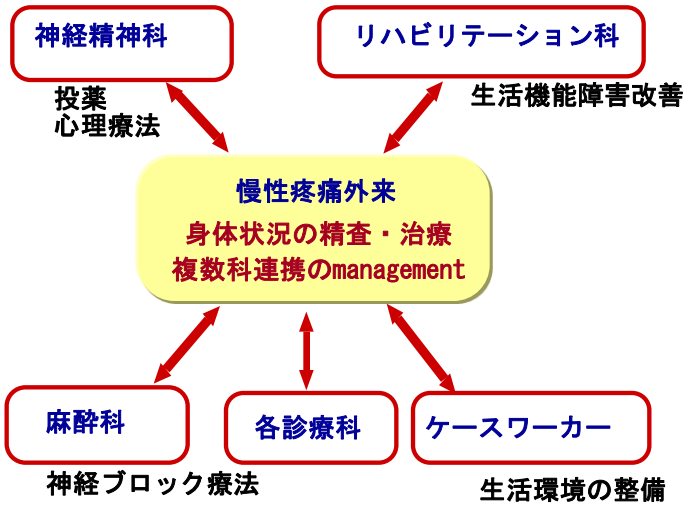
整形外科学講座　教授　山下敏彦、リハビリテーション部　助手　村上孝徳

慢性的な痛みに悩む患者は多い。なかでも神経因性疼痛に対する有効な薬物はまだないのが現状である。また、慢性疼痛症例には心理的・環境的要因が関与することがあり、病態を更に複雑にしている。われわれは、8年前より全国でもユニークな慢性疼痛外来を開設し、難治性疼痛症例を対象とし、種々の薬剤の経口投与、クモ膜下腔投与など新しい薬物療法の試みを行っている。また、複数の診療科やコメディカルと連携した集学的診療体制を構築している。

1. 慢性疼痛外来の概要

- 1999年10月開設
- 総受診者数：244名
  （男93名、女149名）
  平均年齢：51.6歳
- 疾患の内訳
  慢性腰痛
  腰椎術後疼痛
  頚髄症
  上肢CRPS
  下肢CRPS　etc.

2. 集学的診療体制



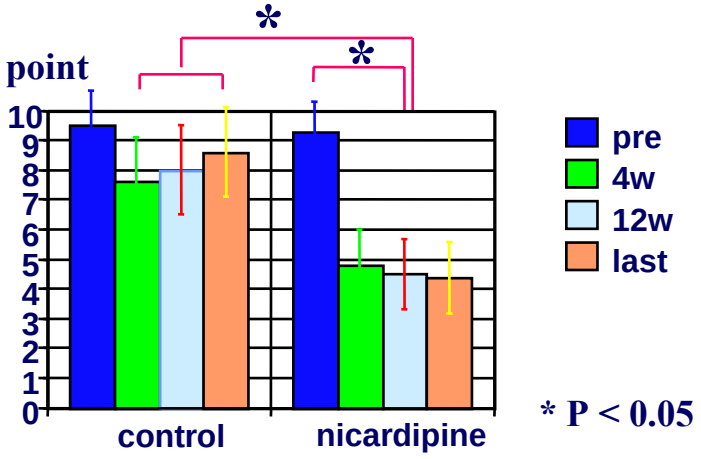
3. 慢性疼痛患者に対するカルシウム拮抗薬クモ膜下投与

塩酸ニカルジピン
（Ca拮抗薬：ペルジピン）
6mg：intrathecal injection

↓

投与頻度：1/week
投与期間：1month

↓

維持投与：1/month

Ca拮抗薬投与後における
自己疼痛評価（VAS）の変化